

学会彙報

○平成元年度大塚漢文学会大会

六月二十五日(日)

於東京都教職員互助組合教育会館

〔研究発表〕

一、「二拍」の物語とその評価について

筑波大学大学院 村田 和弘氏

一、中国話劇の台詞について

文教大学 白井 啓介氏

一、蘇軾の黄州寒食詩卷と李常

小山工業高等専門学校 中田 伸一氏

一、李商隱詩と陶淵明

吉田高校 上田 武氏

一、「野ざらし紀行」の「富士川捨子」の条をめぐって

一和漢比較文学の立場から 京都教育大学 青木 五郎氏

一、明代白話における「正在V」の成立 筑波大学 伊原 大策氏

一、日本における中国語文法研究略史 文教大学 牛島 徳次氏

〔漢文教育シンポジウム〕

〔新学習指導要領について〕 小松川高校 町田 静隆氏

小山台高校 毛利 順男氏

千葉大学 田部井文雄氏

文教大学 謡口 明氏

〔総会〕

一、開会の辞

内山 委員

二、議長選出 高木重俊氏を選出

三、委員長挨拶

四、諸報告

(1) 庶務

松本 委員

(2) 企画

向嶋 委員

(3) 会報編集

高橋 委員

五、議事

(1) 昭和六十三年度決算

堀池 委員

(2) 平成元年度予算

堀池 委員

(3) 委員選挙

水沢利忠、内山知也、田部井文雄、高橋 均、中村嘉弘、向嶋

成美、謡口 明、中村俊也、大上正美、安藤信広、小谷一郎、

加藤 敏、伊原大策、大塚秀明、白井啓介、小松建男の十六名

を選出

(4) その他

内山 委員

○月例会 平成元年十一月二十五日(土)

於筑波大学学校教育部第二会議室

一、「官話」という言葉について 筑波大学 大塚 秀明氏

一、「輞川集」の構成と解釈をめぐって 文教大学 加藤 敏氏

平成二年三月十日(土)

於筑波大学学校教育部第一会議室

一、杜甫詩中の「馬」と「鷹」 筑波大学大学院 間宮 聰子氏

一、黄道周の「書品論」について 筑波大学大学院 河内 利治氏

○平成元、二年度委員会

委員長 水沢利忠

副委員長 内山知也

総務 向嶋成美

(企画) 田部井文雄、中村嘉弘、中村俊也、加藤 敏

(庶務) 伊原大策、国分建志

会計 大塚秀明、小松建男

会報編集 高橋 均、諺口 明、大上正美、安藤信広、小谷一郎、

白井啓介

会計監査 佐治俊彦、阿川修三

住所、勤務先等に変更のあった方は、事務局(〒305 茨城県つく

ば市天王台一ノノ一、筑波大学文芸・言語学系内)宛に第一報

ください。

大塚漢文学会々則

- 一、本会は大塚漢文学会と称する。
- 二、本会は漢文学及び漢文教育の研究と普及とを図ることを目的とする。
- 三、本会の会員は左の通りである。
- 1、旧東京教育大学漢文学会々員であつて参加を希望する者
- 2、その他入会を希望する者
- 四、本会の主な事業は左の通りである。
- 1、総会 年一回
- 2、例会 年約三回
- 3、学会誌及び会員名簿の発行
- 4、その他必要な事項
- 五、本会の役員は左の通りである。
- 1、委員長 一名
- 2、委員 若干名
- 3、編集委員 若干名
- 六、役員の仕事
- 1、委員長は本会を代表し委員とともに運営にあたる。
- 2、委員は本会の庶務・会計・企画を分担する。
- 3、編集委員は学会誌の発行にあたる。
- 七、役員の出及び任期
- 1、委員長は委員の互選による。
- 2、委員は会員の互選による。
- 3、委員会が必要に応じて委員を委嘱することができる。
- 編集委員は委員会が委嘱する。

4 任期は二年とする。ただし重任は差し支えない。

八、会員は会費年額四千円を納める。

九、本会々則の変更は委員会の審議を経て総会出席者の過半数の承認を得なければならない。

附則1、本会則は昭和五十四年六月二十三日より東京教育大学漢文学会々則に代つて発効する。

2、本会の事務所を当分の間筑波大学文芸言語学系中国文学研究室に置く。

以上

編集委員

(哲学・思想) 小林 信明・加賀 栄治・水沢 利忠
(文学・語学) 牛島 徳次・内山 知也・伊藤 虎丸
(漢文教育) 鎌田 正・金子 泰三・田部井文雄

中国文化 一九九〇

平成二年六月二〇日印刷
平成二年六月二三日発行

漢文学会会報四八号

編輯者

高橋 均・謡口 明・大上 正美
安藤 信広・小谷 一郎・白井 啓介

印刷所

株式会社 共立社印刷所
東京都千代田区神田神保町三ノ一〇
電 (20) 二〇〇二八

発行所

茨城県つくば市天王台一―一―
筑波大学文芸言語学系内(〒330五)
大塚漢文学会